GLOBAL
CROSSVALUE
PLATFORM

株主レポート
まるべに
2021 WINTER No.131

CONTENTS

01 社長メッセージ
02 財務ハイライト
03 グループニュース
04 丸紅グループのDX戦略
コラム 正新和『統合報告書2021』
気候変動対策への取り組み
特集 丸紅ギャラリー開館

Marubeni

01 MESSAGE FROM CEO 社長メッセージ

第2四半期累計期間として過去最高益を達成
年間配当金予想も大幅増配へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援およびご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

11月2日に2021年度第2四半期連結決算を公表しました。純利益は前年同期比+1,041億円（+102%）増益の2,058億円となり、第2四半期累計期間として過去最高益を達成しました。これを受けて、通期の純利益見通しを3,500億円に上方修正し、年間配当金の予想についても期初に公表した1株当たり34円から17円増配の1株当たり51円とし、これを下限としました。

2020年5月に修正した中期経営戦略「GC2021」では、「財務基盤の再生・強化」と「事業戦略の強化」の2つを基本方針としています。「財務基盤の再生・強化」については、キャッシュ・フロー重視の経営を徹底した結果、今年度末のネットDEレシオは0.8倍程度まで改善する見込みとなり、財務基盤の再生に目途がつきつつあります。また「事業戦略の強化」についても、既存事業の収益力改善や拡張施策を着実に進めた結果が足元の好調な決算に表れていると考えています。

来年度から始まる次期中期経営戦略に向けて、順調に足場固めを進めています。2019年度の赤字決算以降は財務基盤の再生を優先し自己株式の取得は行わない方針としていましたが、今後はキャッシュ・フローやバランスシートの状況および経営環境等を見ながら、機動的に自己株式の取得も検討してまいります。

当社を取り巻く経営環境を見渡すと、引き続き多くの地域で経済活動の制約となっている新型コロナウイルス感染症のみならず、主要国の経済情勢やサプライチェーンの問題など、先行き不透明な状況が続いていますが、将来を見通すことが困難な時代だからこそ、社会の変化をいち早く察知し、自ら変革し続けていくことが重要です。引き続き、気候変動問題やDX（デジタルトランスフォーメーション）といった世界の潮流を確実に捉え、社会課題の解決にチャレンジしていきます。

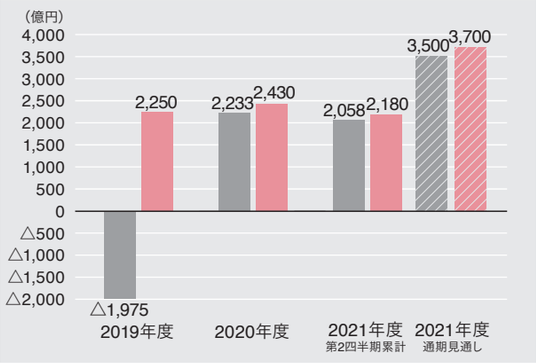
株主の皆様におかれましても、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 柿木真澄

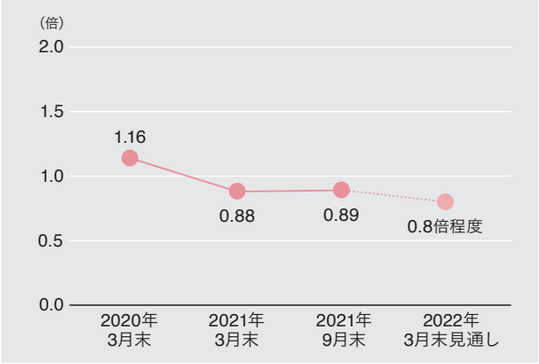
02 FINANCIAL HIGHLIGHT 財務ハイライト

2021年度第2四半期累計期間の純利益は、2,058億円（前年同期比+1,041億円の増益）となりました。2021年度通期の純利益見通しは、期初見通しの2,300億円から3,500億円に上方修正しました。これに伴い、年間配当金についても期初予想の1株当たり34円から1株当たり51円に上方修正し、これを下限とします。中間配当金は1株当たり25.5円で決議済みであり、12月1日より支払いを開始します。

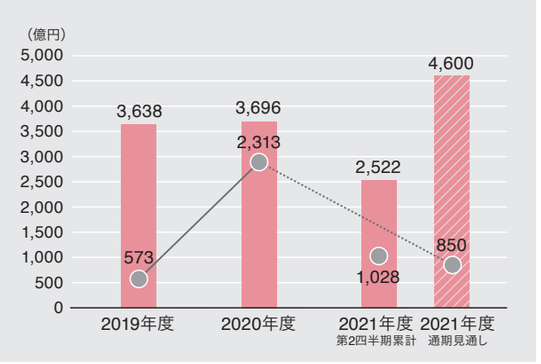
純利益・実態純利益



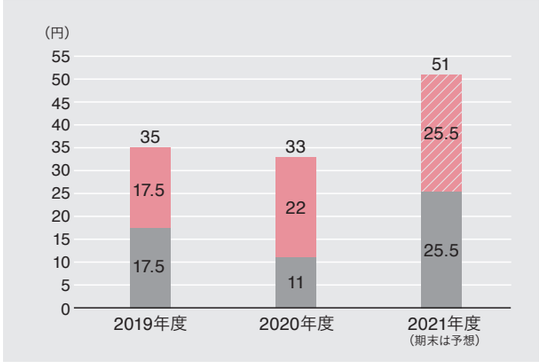
ネット DE レシオ



キャッシュ・フロー



1株当たり年間配当金



※純利益：親会社の所有者に帰属する当期利益　※実態純利益：純利益から一過性要因を控除した概数
※2021年度通期見通し／ 2022年3月末見通し：2021年11月2日に公表した通期見通し　※基礎営業キャッシュ・フロー：営業キャッシュ・フローから営業資金の増減等を控除
※IAS第12号の早期適用に伴い、2020年度及び2021年3月末は遡及適用後の数値を表示しております。

更に詳しい情報は当社ウェブサイトをご覧ください。
https://www.marubeni.com/jp/ir/finance/

セグメント別純利益

（億円）	2020年度 第2四半期累計	2021年度 第2四半期累計	増減	主な増減内容
ライフスタイル	7	7	+0	
情報・不動産	89	96	+6	
フォレストプロダクツ	△ 6	62	+67	パルプ市況の改善等に伴うムシパルプ事業の業績改善等
食料第一	46	93	+48	北米天然鮭鱒事業の売却益
食料第二	128	197	+70	肉牛処理加工・販売事業の増益
アグリ事業	167	332	+166	農業資材需要の増加及び資材価格の上昇に伴うGavilon肥料事業及びHelena社の増益
化学品	87	95	+7	
エネルギー	35	130	+95	原油・ガス価格の上昇等に伴う石油・ガス開発事業の業績改善
金属	185	871	+686	商品価格の上昇に伴う豪州鉄鉱石事業、チリ銅事業及び豪州原料炭事業の増益 鉄鋼製品事業の増益
電力	121	△ 88	-209	海外EPC案件における一過性損失 電力IPP事業における一過性損失
インフラプロジェクト	63	37	-26	海外インフラ案件における一過性利益の反動
航空・船舶	29	104	+75	船舶市況の改善に伴う船舶関連事業の業績改善
金融・リース事業	66	81	+15	米国中古車販売金融事業等の増益 米国航空機リース事業の業績悪化
建機・産機・モビリティ	62	120	+57	新型コロナウイルスの影響緩和に伴う自動車関連事業及び建設機械事業等における販売台数増加等
次世代事業開発	△ 10	△ 3	+7	
その他	△ 52	△ 74	-23	新社屋移転関連費用
全社合計	1,017	2,058	+1,041	

※2021年度よりオペレーティング・セグメントの「食料」を「食料第一」と「食料第二」に分割、「エネルギー」及び「インフラプロジェクト」の一部を再編、「インフラプロジェクト」及び「航空・船舶」の一部を「金属」に、「建機・産機・モビリティ」の一部を「金融・リース事業」に編入しております。これらの変更に伴い、本資料では2020年度のオペレーティング・セグメント情報を組み替えて表示しております。
※IAS第12号の早期適用に伴い、2020年度は遡及適用後の数値を表示しております。

03 Group News グループニュース

グローバルに広がる、丸紅グループの最新トピックや
プロジェクトを幅広くご紹介します。
更に詳しい情報は当社ウェブサイトをご覧ください。
https://www.marubeni.com/jp/news/

オランダ

化学品

2021.6.25リリース
欧州の大手香辛料・調味料メーカーEuroma社への出資参画について

英国

次世代事業開発

2021.5.26リリース
英国eスポーツチームFnaticとの資本提携・戦略提携について

航空・船舶

2021.9.24リリース
英国Vertical Aerospace社とのエアモビリティ実装化に向けた業務提携について

サウジアラビア

電力

2021.4.9リリース
サウジアラビア王国・ラービグ太陽光発電プロジェクトの長期売電契約および融資契約締結ならびに着工について

フィリピン

航空・船舶

2021.6.21リリース
船員向け電子通貨プラットフォームサービス事業の共同展開について

インフラプロジェクト

2021.7.5リリース
マニラLRT2号線東延伸の運行開始について

豪州

エネルギー

2021.5.20リリース
豪州・タスマニアにおけるグリーンアンモニア事業の検討について

エネルギー

2021.9.15リリース
日豪間での大規模なグリーン液化水素サプライチェーン構築に向けた事業化調査の実施

日本

電力

2021.4.27リリース
秋田県秋田港及び能代港における洋上風力発電事業の洋上据付工事の開始について P.7

情報・不動産

2021.5.14リリース
講談社、集英社、小学館と出版流通改革を実現する新会社設立に向けた協議開始について

建機・産機・モビリティ

2021.7.2リリース
産業用コネクタ等の電子部品を取扱う専門商社ソルトン社の買収について

食料第二

2021.8.17リリース
酪農・畜産DXの推進に向けた協業開始について

フォレストプロダクツ

2021.9.16リリース
循環型食器「edish」の環境省実証事業採択について

カナダ

建機・産機・モビリティ

2021.4.2リリース
カナダ・オンタリオ州におけるコンベヤベルトディストリビューターの買収について

米国

電力

2021.8.6リリース
シージャックス社全株式のエネティ社への譲渡ならびにエネティ社の新株引受について

次世代事業開発

2021.9.7リリース
フランス発のクリーンビューティーブランドを展開するSHIGETAへの出資参画について P.8

TOPICS グループニューストピックス

秋田県秋田港及び能代港における洋上風力発電事業の洋上据付工事の開始について

2021.4.27リリース

日本初、洋上風力据付船による洋上据付工事を開始

丸紅が筆頭株主の秋田洋上風力発電株式会社が、秋田県秋田港及び能代港で進めている着床式洋上風力発電所及び陸上送変電設備の建設について、今般、大型洋上風力据付船であるSEAJACKS ZARATAN号が秋田港に到着し、4月28日より洋上での基礎据付工事を開始しました。この洋上風力発電事業は、日本国内で初めての商業ベースでの大型洋上風力発電事業であり、また、洋上風力据付船が日本の海域で洋上風力据付工事を行うのは史上初となります。

本工事は、2020年2月に着工しており、洋上据付工事は2021年中に完了、2022年4月頃より秋田港及び能代港の沖合に合計33基の風車据付工事を行い、2022年末までの商業運転開始を目指します。

SEAJACKS ZARATAN号
提供：秋田洋上風力発電株式会社

PICK UP

能代港完成予想図（上空）
提供：秋田洋上風力発電株式会社

再生可能エネルギー発電事業の強化へ

丸紅は、日本を含む世界19カ国で持分容量約12GWの発電資産を保有・運営しています。サステナビリティ推進の一環として、世界の気候変動対策への取組みに貢献すべく、2018年9月に石炭火力発電事業および再生可能エネルギー発電事業に関する取組み方針を発表、2021年3月には気候変動長期ビジョンを策定しました。今後も積極的に再生可能エネルギー発電事業へ取り組んでいきます。

洋上風力発電は大容量且つ高効率の発電方式として欧州・アジア・米国を中心に更なる市場拡大が見込まれていることから、国内外での更なる事業参画・運営を強化していきます。

フランス発のクリーンビューティーブランドを展開するSHIGETAへの出資参画について

2021.9.7 リリース

欧米で人気のクリーンビューティーを日本、アジアに展開

丸紅は、フランス発のクリーンビューティーブランドである「SHIGETA PARIS」を展開するSHIGETA株式会社と資本提携を行い、日本およびアジアにおいて共同で事業を推進することに合意しました。クリーンビューティーとは、一般的には化学原料を使わない自然派商品（オーガニックコスメ認証等を受けた商品）かつサステナビリティへの配慮およびエシカルソーシング（動物実験不実施、労働環境配慮等）の徹底等の要件を満たす化粧品で、近年大きなトレンドになっています。

SHIGETA PARISはクリーンビューティーの重要な要件となるオーガニックコスメ認証の中でも、厳格性において最高水準とされるCOSMOS認証※を取得したパリの自社製造工場にて研究開発、製造、パッケージングまでを一貫して行っています。

市場調査会社Statistaによれば、2016年に110億ドルであった世界のクリーンビューティー市場は、2027年には545億ドルまで成長が予想されており、特に欧米において、サステナビリティに対する高い関心を持つミレニアル世代・Z世代を中心に大きなムーブメントに発展しています。また、世界の化粧品消費市場の約4割を占めるアジアでは発展途上のコンセプトであり、所得水準の向上およびサステナビリティに対する消費者意識の高まりから今後大きな市場成長が見込まれます。

PICK UP

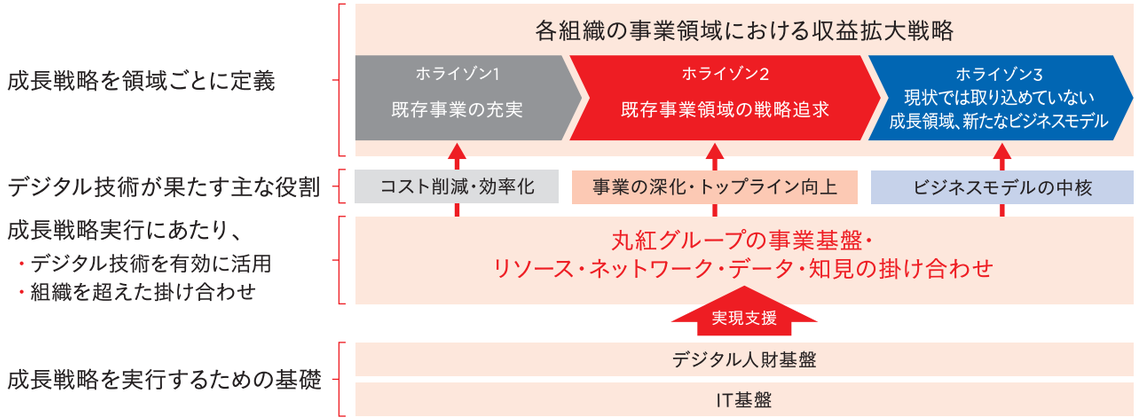
ミレニアル世代・Z世代の次世代消費者需要を取り込む

丸紅は、日本、アジアにおいてミレニアル世代・Z世代等の次世代消費者に支持されるコンシューマー・ビジネスの創出を目指す中、クリーンビューティー・ウェルネス分野に着目しており、SHIGETAとの資本提携は進出の第一歩となります。SHIGETAの日本およびアジア市場でのブランド認知向上、販売面支援、企業価値向上を目指すと共に、クリーンビューティー・ウェルネス分野における継続的な事業拡大を推進していきます。

※欧州各国のオーガニック化粧品認証団体がそれぞれ独自に定めていた認証ルールを統一するために制定した欧州で最も普及している基準。オーガニック化粧品の認証基準としては世界的に最も厳格な基準の一つであり、化粧品分野において持続可能な開発を可能とすること、環境保護・自然由来および有機原料を使用した原材料の生産・最終製品の流通を促進していくことを目的にしている。

04 DX Strategy 丸紅グループのDX戦略

丸紅グループにおけるDX（デジタルトランスフォーメーション）戦略とは、デジタル人財基盤・IT基盤を整備、充実させ、必要なデジタル技術を活用することで、成長戦略を実行することです。丸紅グループの事業基盤・リソース・ネットワーク・データ・知見を掛け合わせることにより、様々な事業領域における収益拡大戦略に取り組んでいきます。



DX事例

デジタル技術を駆使した次世代金融サービス

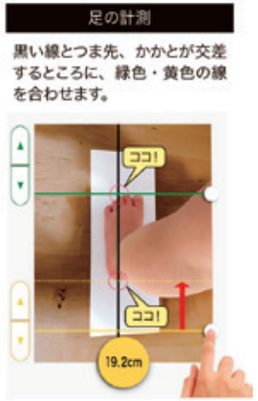
丸紅は、2020年12月にモンゴル国内を中心にスマートフォンを利用した少額融資や電子決済などのデジタル金融サービスを展開するスタートアップAND Global社に出資しました。同社は、AIスコアリングを活用した独自開発の審査システムや外部アプリとの連携構築など、実用性の高いフィンテックソリューションの開発・提供を行っています。今後はモンゴルを中心に展開するデジタル金融サービスを、中間層が拡大するアセアン新興国市場に展開していくほか、デジタル金融サービスの導入を図る金融機関や事業会社に対して、フィンテック技術の開発・運用支援をFinTech as a Service（「FaaS」）として提供していく予定です。

船舶プール事業における運航効率化

丸紅は、ノルウェーのKlaveness社とともに2020年に船舶プール運営会社MaruKlavを設立し、国内外の海運会社および投資家が保有するばら積み船の受託運航を行っています。大型・新鋭低燃費船を保有し貨物輸送の知見を持つ丸紅と、環境配慮意識が高く船会社でありながらもデジタル分野での開発力と実績を有するKlaveness社の相互の強みを活かし、業容を拡大しています。同社は、AIを用いた市況予測や、データ統合ツールを用いた運航船舶の配船最適化と輸送の効率化により、経済性の向上だけでなく温室効果ガス排出削減に貢献します。世界人口の増加と新興国の経済発展に伴いコロナ禍においても拡大を続ける海上輸送需要と、脱炭素化の世界的な気運の高まりを背景に、「海運×環境×DX」の事業展開を目指します。

AR※機能を活用した足計測アプリ

丸紅フットウェアが展開する子ども靴ブランド「IFME（イフミー）」では、子どもの足のサイズを自宅で簡単に計測できるアプリ「ぴったり IFME®」を提供しています。「子どもたちの足を健やかに育む。」というIFMEのコンセプトのもと、子どもたちの足の発育に合った靴選びをサポートするもので、iPhoneに搭載されているカメラを使って足のサイズを計測することができます。計測結果に応じたお薦めのサイズ提案、計測結果の保存、定期的な計測のリマインド機能もあり、子どもの足の成長に合わせてちょうど良いサイズの靴選びができます。アプリのダウンロード数は2021年9月30日時点で9万794件を達成。さらにアプリとの連携によりIFMEの公式オンラインストア（2021年9月開設）での購入率向上につなげます。



アプリのダウンロードはこちら

IFMEの公式オンラインストアはこちら
https://ifme.jp/

※拡張現実。「Augmented Reality」の略。

コラム
—
正新和

Integrated Report 2021

『統合報告書2021』を発行しました

『統合報告書2021』では、丸紅グループの価値創造ストーリーを新たにお示しするとともに、企業価値向上に向けて変革を推し進める丸紅グループの取り組みを数多くご紹介しています。サステナビリティページでは、TCFD[※1]提言に基づくシナリオ分析[※2]を拡充するなど、非財務情報の開示を充実させました。当社ウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご一読いただき、改めて丸紅グループ全体の取り組みについて理解を深めていただく機会となれば幸いです。

価値創造ストーリー

特集：変わる丸紅

事業戦略と概況

TCFD 提言に基づくシナリオ分析

社外取締役鼎談

統合報告書2021

https://www.marubeni.com/jp/ir/reports/integrated_report/

（※1）金融安定理事会（FSB：Financial Stability Board）によって設立された気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures）。
（※2）気候変動がより顕在化した未来の複数のシナリオに基づき、企業に及ぼす影響や、その影響下での事業の継続性や強靭性を示すもの。

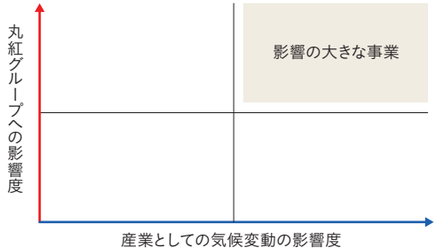
気候変動対策への取り組み
ーTCFD提言に基づくシナリオ分析ー

丸紅グループは、2050年までにグループにおける温室効果ガス（GHG：Greenhouse Gas）排出ネットゼロを目指す『気候変動長期ビジョン』実現に向けて、気候変動に関連する社会の変化を「先取り」し、「成長機会の創出」と「リスク低減」に戦略的に取り組んでいます。
その一環として、丸紅グループが取り組む事業の中でも、気候変動の影響を受ける可能性が相対的に高いと考えられる以下10分野の事業を選定し、気候変動対策の強化をさらに進めて今世紀末の気温上昇が2℃未満に抑えられた場合（移行シナリオ）と、現状を上回る対策を講じずそれ以上に気温上昇した場合（現行シナリオ）について、それぞれの事業リスクおよび機会への対応について分析を行いました。

シナリオ分析対象事業の選定：

下図マトリックスの右上部分をシナリオ分析の対象としました。

横軸　気候変動の財務的影響が高いとされる事業領域
縦軸　丸紅グループへの影響度（資産規模、収益規模など）



左記プロセスで選出したシナリオ分析対象事業（10分野）

- ○発電事業
- ○エネルギー資源権益（石油・ガス・LNG）事業
- ○代替エネルギー事業
- ○原料炭権益事業
- ○金属資源権益（鉄鉱石・銅）事業
- ○航空機リース事業（Aircastle）
- ○船舶事業
- ○北米穀物事業
- ○北米アグリインプット事業
- ○森林事業

本シナリオ分析は、2019年に賛同したTCFD提言に基づくもので、『統合報告書2021』ではその分析結果を詳細に開示するとともに、丸紅グループの気候変動に対する高いレジリエンスをご紹介しています。詳細は、『統合報告書2021』P.56 ～ 64「TCFD提言に基づく情報開示」をご覧ください。

Marubeni Gallery

特集 丸紅ギャラリー開館

丸紅は2021年11月1日に東京本社ビル3階フロアに「丸紅ギャラリー」を開館しました。今後、年3回程度の企画展を通じて、所蔵する「丸紅コレクション」を一般公開していきます。2022年1月31日まで「開館記念展Ⅰ ―日仏近代絵画の響き合い―」を開催しております。ぜひご来場ください。(裏表紙に無料ご招待券を添付していますので、ご利用ください。)

1

「開館記念展Ⅰ ―日仏近代絵画の響き合い―」では、19世紀写実派による風景画から始まり、フランス近代絵画の巨匠作品や、彼らから多大な影響を受けた日本の洋画家の作品を公開します。ギャラリーのコンセプトを踏まえ、近代絵画における芸術交流を通じた日仏の共鳴を浮き彫りにすることを試みる展覧会です。

2

3

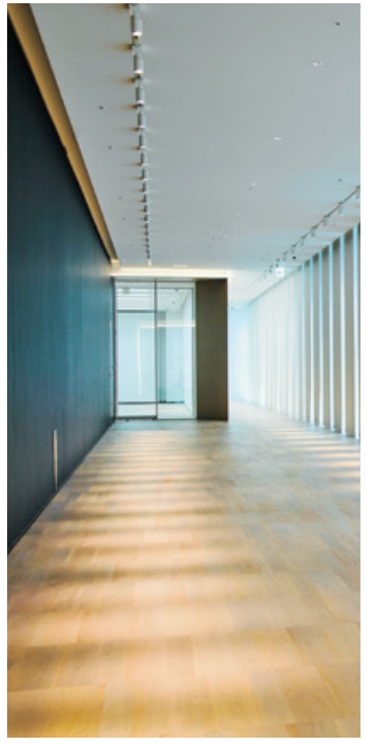
1 モイーズ・キスリング《ミモザの花》1952年
2 ピエール＝オーギュスト・ルノワール《エスタックのオリーブ畑》1882年
3 和田英作《彦根内湖》1943年

古今東西の美が共鳴する空間

丸紅ギャラリーは「古今東西の美が共鳴する空間」をコンセプトに、丸紅が保有している染織品、染織図案、絵画の3本柱から構成される美術品コレクションを中心に展示・公開する施設です。創業期から繊維事業を通して日本の美を追求してきた丸紅は、後に世界へと活躍の場を広げるなかで、西欧の美を日本に紹介する役割も果たしてきました。ギャラリーでは、丸紅のこれまでの歩みのほか、コレクションを通して東西の美を紹介していきます。

《納戸紋縮緬地淀の曳舟模様小袖》
江戸時代中期

《美しきシモネッタ》
サンドロ・ボッティチェリ 15世紀後半



Marubeni Gallery

ロゴマークについて

染織品コレクションの一つ《納戸紋縮緬地淀の曳舟模様小袖》に描かれた船頭と船、水の流れをモチーフとしています。この小袖には、丸紅創業者である伊藤忠兵衛が初めて持ち下り商いに出た際にも通った淀川の風景が描かれ、丸紅創業の精神に思いを馳せることができます。
ロゴの青は曳舟模様の色、金はボッティチェリ作《美しきシモネッタ》の髪の色を表しています。また、2つの図形のなだらかな交わりは、古今東西の美の共鳴も表現しています。

Marubeni Gallery

丸紅ギャラリー 無料ご招待券

2名様まで1回限りご利用可能
(2022年11月30日(水)まで有効)

※本券ご利用の際は本誌ごとお持ち下さい。

利用案内

開館時間 10:00〜17:00(入館は閉館の30分前まで)
休 館 日 日,祝日,年末年始,展示替期間
※開館時間、休館日が変更になる場合がございますのでご注意ください。
入 館 料 一般(大学生以上)500円
※入館料は全額社会福祉法人丸紅基金に寄付されます。

交通のご案内

・地下鉄「竹橋駅」3a出口より徒歩1分(東京メトロ東西線)
・地下鉄「大手町駅」C2b出口より徒歩6分(東京メトロ千代田線)
・地下鉄「神保町駅」A9出口より徒歩7分(東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄)
当館には駐車場がございません。
近隣の有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください。

企画展

開館記念展Ⅰ 日仏近代絵画の響き合い(開催中〜2022年1月31日)
開館記念展Ⅱ 「美」の追求と継承 –丸紅コレクションのきもの–(2022年6月〜7月)
開館記念展Ⅲ 美しきシモネッタ展(2022年秋)
開館記念展Ⅳ 染織図案展(2023年 検討中)
※Ⅱ以降は予定です。スケジュール・タイトルは変更の可能性がございます。
最新情報は丸紅ギャラリー公式ホームページまたは公式Instagramをご覧ください。

丸紅ギャラリー 公式ホームページ▶
URL:https://www.marubeni.com/gallery/
E-mail:gallery@marubeni.com

丸紅ギャラリー 公式インスタグラム▶
https://www.instagram.com/marubeni_gallery_official/

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号 丸紅ビル3階

会社概要 (2021年9月30日現在)

会社名 …… 丸紅株式会社 (英文:Marubeni Corporation)
創業 …… 1858年5月
設立 …… 1949年12月1日
資本金 …… 262,686百万円

株式事務に関するご案内

● **未払配当金のお支払い**
みずほ信託銀行・みずほ銀行

● **住所変更等の各種お手続き**
【証券会社に口座をお持ちの株主様】
口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。
【証券会社に口座をお持ちでない株主様(特別口座に記録されている株主様)】
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

お問い合わせ先
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324

株主メモ

事業年度 …… 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 …… 毎年6月
期末配当金支払株主確定日 …… 毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日 …… 毎年9月30日
株主名簿管理人および
特別口座管理機関 …… みずほ信託銀行株式会社
〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
同事務取扱場所 …… みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部
〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
単元株式数 …… 100株
上場取引所 …… 東京
公告方法 …… 電子公告
(当社の電子公告は、当社ウェブサイトの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)
https://www.marubeni.com/jp/koukoku.html
証券コード …… 8002
ウェブサイト …… https://www.marubeni.com/jp/

株主レポート まるべに No.131 (年2回発行) 2021年11月30日発行 発行人/田島知浄
発行/丸紅株式会社 財務部 〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号 TEL 03-3282-2418

VEGETABLE OIL INK
環境保全のため、環境に配慮した植物油インキで印刷しています。

将来見通しに関する注意事項:本紙に掲載された予測および将来の見通しに関する記述等は、本紙の発行日現在における入手可能な情報、一定の前提や予期に基づくものです。よって、実際の業績、結果、パフォーマンス等は、経済動向、市場価格の状況、為替の変動等、様々なリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性がありますが、当社は、本紙の情報の利用により生じたいかなる損害に関し、一切責任を負うものではありません。また、当社は、本紙に掲載された予測および将来の見通しに関する記述等についてアップデートする義務を負うものではありません。